

二 譲り渡し、譲り受け、又は廃棄した向精神薬（第三種向精神薬を除く。次号において同じ。）の品名及び数量並びにその年月日

三 向精神薬の輸入若しくは輸出又は譲渡し若しくは譲受けの相手方の氏名又は名称及び住所

4 向精神薬取扱者は、前三項の規定による記録を、記録の日から二年間、向精神薬営業所、病院等又は向精神薬試験研究施設において保存しなければならない。

（届出）

第五十条の二十四 向精神薬輸入業者、向精神薬輸出業者、向精神薬製造製剤業者及び向精神薬使用業者は、毎年二月末日までに、次に掲げる事項を厚生労働大臣に届け出なければならない。

一 前年中に輸入し、輸出し、製造し、製剤し、若しくは小分けした向精神薬、向精神薬の製造若しくは製剤のために使用した向精神薬又は向精神薬化学変化物の原料として使用した向精神薬の品名及び数量

二 前年の初めに所有した第一種向精神薬の品名及び数量並びに前年の末に所有した第一種向精神薬の品名及び数量

三 その他厚生労働省令で定める事項

2 向精神薬試験研究施設設置者は、毎年二月末日までに、次に掲げる事項を、厚生労働大臣の登録に係る向精神薬試験研究施設設置者にあつては厚生労働大臣に、都道府県知事の登録に係る向精神薬試験研究施設設置者にあつては都道府県知事に届け出なければならない。

一 前年中に輸入し、輸出し、又は製造した向精神薬の品名及び数量

二 その他厚生労働省令で定める事項

3 都道府県知事は、前項の届出を取りまとめ、その年の四月三十日までに、厚生労働大臣に報告しなければならない。

第五節 雑則

(適用除外等)

第五十条の二十五 別表第三第十二号に掲げる向精神薬であつて、濫用のおそれがなく、かつ、有害作用がないものとして厚生労働省令で定めるものについては、政令で、この法律の一部の適用を除外し、その他必要な特例を定めることができる。

厚生労働科学研究費補助金：小児疾患臨床研究事業

小児科における注意欠陥多動性障害に対する診断治療ガイドライン作成に関する研究

課題番号：H15-小児疾患-003

平成17年度第2回班会議

平成17年11月27日；11：00～16：00

東京医科大学病院6階特別会議室

出席者15名（順不同・敬称略）

東京；宮島 祐，小穴信吾，沼部博直（京都）

林 北見，小平あやの，

加我牧子

千葉：渡部京太，吉田弘和，

茨城：田中竜太，

大阪：田中英高、山口 仁

鳥取：小枝達也

福岡：山下裕史朗

オブザーバー：W.E. Pelham, 高山恵子

議事

1) ガイドラインについて、本研究班での役割分担（目次）

1：概説，簡単な病態：宮島+アルゴリズム

2：診断（含む神経生理検査）：加我先生

3：鑑別疾患：小枝先生

4：小児神経疾患との併存障害・症状：林先生

5：単純例の薬物療法、予後：宮本先生

6：行動療法（薬物療法以外の治療）：山下先生

7：教育との連携・本人への障害説明・自己認識をどのように形成するか？

小枝先生

8：複雑例の薬物療法、トラブルシューティングや精神科との連携

斉藤先生

9：主要なevidence study解説：田中先生

10：Q & A；トピックやコラム的な扱いで、注意を喚起する意味で加える

(1) 子育てに関する項目・・・宮本先生

(2) 本人への障害説明などの項目・・・小枝先生

(3) そのほか一般小児科医にとっての必要な知識，ノウハウ

2) 多施設共同臨床研究事業について

(1) 東京医科大学倫理委員会の進行状況（11月29日）

1) 研究概要書

2) インフォームドコンセント親用・子とも用

(2) 薬剤調達（向精神薬取締法に該当）・・・10月23日資料

(3) カプセル充填器（4号カプセル；東京医科大学病院薬剤部承諾）

(4) 薬剤コントローラー（東京医科大学薬理学教室）

- (5) 各施設の倫理上の問題について
- 3) 最終年度研究班関連事業
 - (1) 久留米でのSTP
 - (2) ペアレントトレーニング
 - (3) Pelham 教授来日関連公開講演会スケジュール
 - 11月28日久留米大小児科カンファランス「小児ADHDの包括的治療」
 - 11月29日午前筑後地区難言協研修会「小児ADHDにおける特別支援教育教師の役割」
 - 夜 アクロス福岡「小児ADHDの包括的治療」
 - 11月30日STP会議
 - 12月1日久留米大学心理学科
 - 「米国におけるADHD治療における心理士の役割」
 - 12月2日
 - 広島少年院見学（宮島、山下、品川同行）
 - 第41回のじぎく発達障害勉強会；神戸大学医学部大講義室
 - 「ADHD治療モデルプログラムとしての夏期治療プログラム－研究と実践のインターフェイス」
 - 12月4日大阪；大阪医科大学看護専門学校新講堂
 - 「効果的なADHD児支援プログラム－最新の研究を実践に生かす」
 - 12月5日東京；東京医科大学病院6階臨床講堂「ADHDへの取り組み」
 - (1) 久留米市での夏期治療プログラムの実践とその効果
 - (2) ADHDをもつ子どもに親は何を知って何をすべきか
 - 夜；farewell party
- * 各会場での来場者数記録，医療者，患者家族，マスコミへの情報提供
- 4) 平成17年度12月以降のスケジュール
 - (1) ガイドライン関連
 - 12月中に一般小児科医にも原稿回覧，小児科医の視線，感想
 - 1月下旬までに調整＋イラスト委託（？）
 - 2月末日までに文章構成，レイアウト，体裁統一
 - 3月中旬までに印刷所渡し，3月末日（遅くとも4月21日）までに発行
 - (2) 臨床研究
 - 11月29日；東京医大IRB
 - 12月中に承認・許可書発行？（＋中町赤十字病院？＋α）
 - 1月中旬まで具体的行動（MPH購入，人員配置，4号カプセル充填器，充填，コントローラー，コンピュータ管理方法）
 - 1月下旬から2月末日（～3月10日頃）＝6週間のみ限定
 - 3月10日以降データ集積，解析
- 5) 長寿科学振興財団発表会（18年2月）
- 6) 最終報告書について
- 7) 研究費について

V. 研究班構成員名簿

	氏名	所属	部署	役職
主任研究者	宮島 祐	東京医科大学	小児科	講師
分担研究者	田中 英高	大阪医科大学	小児科	助教授
	林 北見	東京女子医科大学	小児科	助教授
	宮本 信也	筑波大学大学院	人間総合科学研究科	教授
	小枝達也	鳥取大学	地域学部地域教育学科	教授
	山下 裕史朗	久留米大学	医学部小児科	助教授
	加我 牧子	国立精神神経センター精神保健研究所	知的障害部	部長
	齊藤 万比古	国立精神神経センター精神保健研究所	児童・思春期精神保健部	部長
	研究協力者	星加 明德	東京医科大学	小児科
	沼部 博直	京都大学大学院	医学研究科	助教授
	小穴 信吾	東京医科大学	小児科	助手
	中嶋 光博	東京医科大学	小児科	助手
	山中 奈緒子	東京医科大学	小児科	医員
	中島 みずほ	東京医科大学	小児科	医員
	金城 尚子	東京医科大学	小児科	医員
	中村 義彰	東京医科大学	小児科	大学院生
	松宮 輝彦	東京医科大学	薬理学教室	教授
	武田 弘志	東京医科大学	薬理学教室	教授
	山口 仁	中町赤十字病院	小児科	部長
	大澤真木子	東京女子医科大学	小児科	教授
	小国弘量	東京女子医科大学	小児科	教授
	舟塚真	東京女子医科大学	小児科	准講師
	松崎美保子	東京女子医科大学	小児科	助手
	小平かやの	東京女子医科大学	小児科	助手
	猪子香代	東京都精神医学総合研究所	児童思春期研究部門	副参事研究員
	岩崎 信明	茨城県立医療大学	小児科	助教授
	網笠 英世	茨城県立医療大学	小児科	助手
	田中 竜太	筑波大学	臨床医学系小児科	助手
	小野次朗	和歌山大学	教育学部	教授
	今泉 敏	広島県立保健福祉大学	コミュニケーション障害学科	教授
	若宮英司	藍野大学	医療保健学部	教授
	鈴木周平	大阪医科大学	高次脳機能発達総合研究講座	助教授
	北山真次	神戸大学	医学部小児科	助手
	河野政樹	広島県立わかば療育園		副園長
	汐田まどか	鳥取県立皆生総合療育センター	小児科	医長
	瀬島 斉	島根大学	医学部小児科	講師
	平林伸一	長野県立こども病院	小児科	部長
	安立多恵子	松江医療福祉専門学校	言語聴覚士科	学科長
	永光信一郎	久留米大学	医学部小児科	助手
	稲垣真澄	国立精神・神経センター精神保健研究所	知的障害部	室長
	井上祐紀	国立精神・神経センター精神保健研究所	知的障害部	流動研究員
	小久保奈緒美	国立精神・神経センター精神保健研究所	知的障害部	流動研究員
	軍司敦子	国立精神・神経センター精神保健研究所	知的障害部	研究員
	渡部 京太	国立精神神経センター国府台病院	児童精神科	医師
	小平 雅基	国立精神神経センター国府台病院	児童精神科	医師
	宇佐美 政英	国立精神神経センター国府台病院	児童精神科	医師
	清田 晃生	国立精神神経センター精神保健研究所	児童・思春期精神保健部	室長
	藤井 猛	北海道大学	大学院医学研究科	大学院生
	吉田 弘和	国立精神神経センター国府台病院	児童精神科	医師
	佐藤 至子	国立精神神経センター国府台病院	児童精神科	心理療法士
	入砂 文月	国立精神神経センター国府台病院	児童精神科	心理療法士
	秋山 三左子	国立精神神経センター国府台病院	児童精神科	心理療法士
	瀬戸屋 雄太郎	国立精神神経センター精神保健研究所	社会精神保健部	研究員
	林 望美	国立精神神経センター精神保健研究所	児童・思春期精神保健部	流動研究員
オブザーバー	高山 恵子	NPO法人えじそんくらぶ		代表
	品川 裕香	Office Blue Dragon		ノンフィクションライター